

「シーガー使って今日も快釣」 鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

★鈴木さんのフグ仕掛けはもちろん自製。ハリスが絡みやすいので、張りのあるフロロカーボンを使うのがコツとのこと。ここでは鈴木さんのラインシステムを紹介しておこう。PE1.5号にリーダー8号は太すぎるとも思えるが、「根掛かりしない釣り場では太めのリーダーを使ってノットを強化するんです。逆に根の多い釣り場、たとえばヒラメ釣りなどでは6号メインで、根掛かり時のPE切れを防止します」



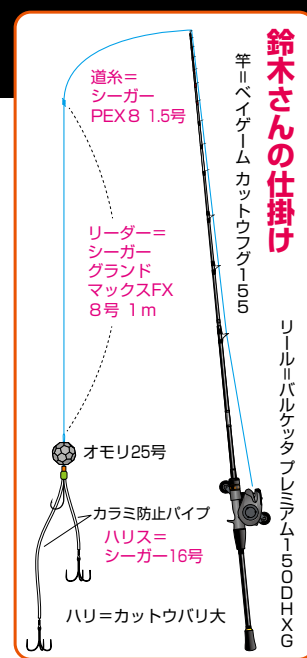
▲鈴木さんの自製仕掛け
シーガー
グランドマックスFX

●0.3〜10号まで、6・8号はそれぞれ60m巻きで、価格は4,400円と5,300円(税別)

▲シーガーPEX8
●0.4〜6号まで、1.5号は150m、200m、300m巻き。オープン価格



▲腰を傷めていた鈴木さん、終盤はこの体勢で



鈴木さんの仕掛け

ラインバルケッタプレミアム500D HXG

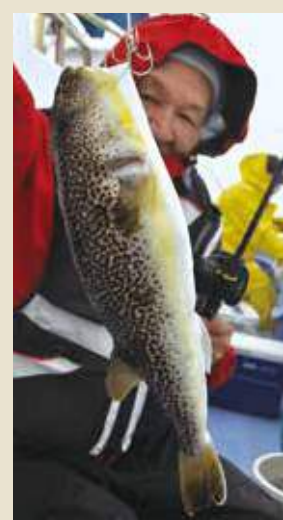


▲当日最大は38センチ

「サバフグが多かったです、そのぶんアタリも多くて面白かったですよ」と鈴木さん。外房のフグはまだ始まったばかり、もう少し海が落ち着いてくれれば再び盛り上がるはず、とは船長の弁。デカフグのドスンはまだまだ有望である。



▲バレないようにうまくウネリをかき上げて巻き上げる
▲35センチ級の大型も



▼前半はサバフグの邪魔に辟易



▲電動リールの使用者も多かった
▲このクラスだとエサバりに掛かってくことも

Challenge #69

★掛かった直後は竿が立たなくなるほどの重量感

鈴木新太郎

デカフグの「ドスン」を味わう 悪条件ながら すべて30センチ級

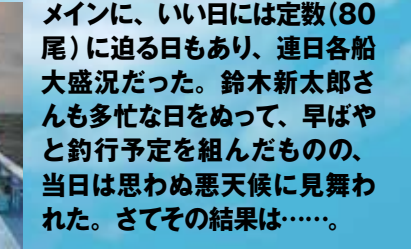
釣れる 釣れる 釣れる 釣れる



▼強い風とウネリの中での釣りとなった

●大原沖、今シーズンのフグは熱い。30センチ前後の大型をメインに、いい日には定数(80尾)に迫る日もあり、連日各船大盛況だった。鈴木新太郎さんも多忙な日をぬって、早ばやと釣行予定を組んだものの、当日は思わぬ悪天候に見舞われた。さてその結果は……。

★食いが上向くことはなかったが、掛かれば30センチ級



船長は大きく移動して30メートルダチの深場へ移動。ここへきてサバフグが減ってきたと思ったら、いきなり鈴木さんが35センチ前後の大型連釣。「このサイズですよ。掛けた瞬間、竿が立たなくなることもあるんですよ」とご満悦。さあ、デカフグ祭りのスタートか、と思われたが、しばらくするとアタリさえ途切れちゃう。細かく移動を繰り返して、サバフグを避けながらポツポツと拾い釣りする展開で11時半の納竿を迎えた。風とウネリでアタリを取るのも難儀した一日で、釣果は28〜39センチを1〜6尾、鈴木さんが竿頭だった。

一時は連日デカフグ祭りに沸いた外房大原沖、現在は釣果も落ち着き、ピークは過ぎたようにも思えるが、「ここ2週間、シケばかりで満足を釣りができていないんです」と鈴木さん。よく聞けば沖のポイントまで行けなかったり、潮の濁り、底荒れなどが下降した原因らしい。10月中旬のこの日は満を持しての釣行だったが、または北東風が10メートル以上吹く悪天候に見舞われた。乗船したのは外房大原港の春日丸。7人の乗船者とともに4時半に出船。港を出ると大きなウネリと向かい風が押し寄せ、40分ほど走って太東沖水深25メートル前後に到着した。鈴木さんは自製の2本バリ仕掛け、ウネリを考慮し1.5メートル、グラストップの竿を使用。エサは船常備のアオヤギである。鈴木さんは竿をやや高めに構えて、ウネりに合わせてゼロテンをキープする釣り方。タイム釣りというより、アタリを取って合わせる釣り方になる。ところがこの日は思わぬ難敵に見舞われる。東京湾でも大発生しているサバフグで、鈴木さんもいきなり3連釣。船長がごまめに移動してくれたおかげで、開始30分ようやく32センチの1尾目を取り込んだ。船中でもポツポツと上がり始めるものの、サバフグ10にシヨウサイフグ1〜2といった具合だ。貴重なアオヤギエサの消費も激しく、